

- 1 日時 令和7年11月〇日(〇) 第〇校時
- 2 学年 第5学年〇組
- 3 単元名 「光り輝く将来の夢」【キャリア教育で自分の夢や希望とつながる】
- 4 単元について

目標

実社会で生き生きと働く人々との関わりを通して、そこで働く人々の仕事に取り組む姿や仕事に対する思いや願いを知り、夢や希望をもって自己の働き方や生き方についての考えを深めるとともに、これからの自己の生き方に生かしていくことができるようにする。

目指す子供の姿

- それぞれの企業が大切にしている理念や、そこで働く人たちの思いや願いがその人の生き方に影響を与えられていることを理解している。
- それぞれの企業や働く人たちの思いや願いを整理・分析し、自分の考えを広げ、自分の将来について考えたことを相手や目的に応じて表現している。
- それぞれの企業で働く人との探究活動を通して、働くことに関心をもち、自己の生き方について考えを広げ、これからの自己の生き方に生かそうとしている。

現在の子供の姿

自分に自信をもてず、自分の思いや願いを相手に伝えることが苦手な児童が多い。また苦手なことには無関心である。学校評価アンケートの結果によると「自分にはいいところがある」の項目に肯定的回答をした児童が72%であったが、「とてもそう思う」と回答した児童は10%とかなり低い数値だった。このことから自分に自信をもてない児童が多いことが分かり、苦手なことで失敗する姿を見られたくないなどの要因から無関心につながっていると考えられる。一方で、自分の得意なことには前向きに取り組む姿は見られる。総合的な学習の時間アンケートの結果によると「将来の夢はありますか」の項目に肯定的回答をした児童が85%と高い数値だった。しかし、「分からない」や「まだ考えたことがない」と回答した児童もおり、社会で働いている人と関わる機会が少ないため、将来の夢や仕事に関して関心や見通しがもてている児童が少ない。

4月から児童は、「人は何のために働くのか」という問いを立て、自分のこれからの生き方について考え始めた。3つの企業で働く方に直接インタビューを行ったり、実際に働く体験をしたりする活動を通して、実際に働いている方の思いを知り、働くことに対する関心が深まったことで、「自分たちが考えた取組を実行できるまで提案してみたい」と自分事として考えられる児童が増えてきた。さらに、「マイ・プランノート」を活用することで、自分の将来の自分像がはっきりし、自分の思い描いている将来の自分につながる人やもの、出来事との出会いを大切にできるようになった。

単元の価値

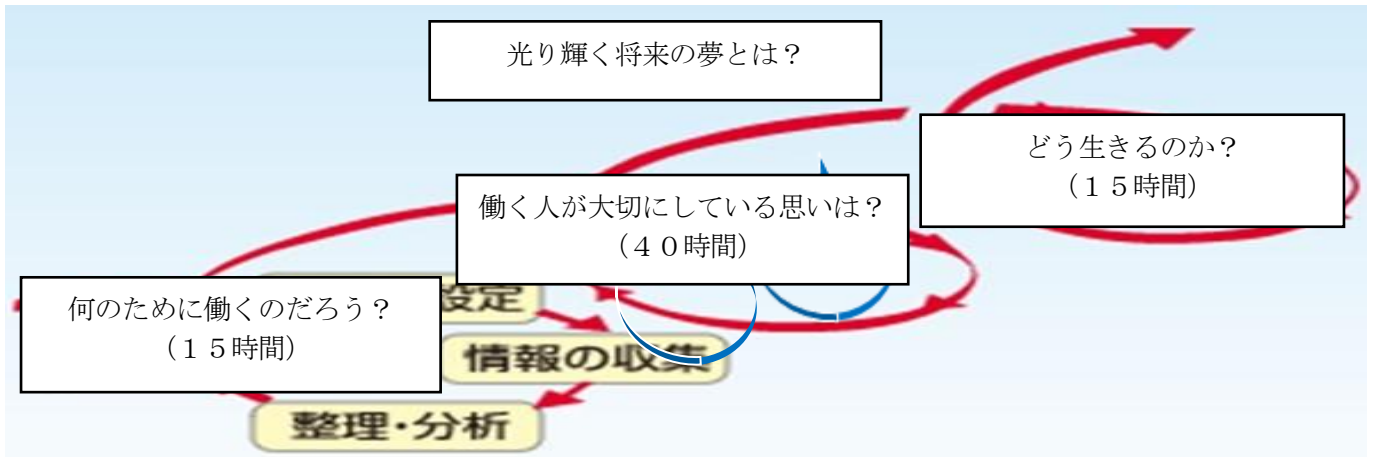
本単元は、3つの企業（三島食品、アンデルセン、オタフクソース）で働く人と関わるのが主な活動となる。働く人々の仕事に向かう姿や、思い・願いについてふれると共に、働くことが人間形成にどう影響しているのか考えることで、自分自身の生き方を見つめ直すことができる。そして、見つめ直したことをもとに、これからの人生で大切にしたい思いを深めることができる。

また、食で広島を支えてきた3つの企業の思いに触れることで、広島に愛着をもち、広島で生まれ育った一人として、これからの自己の生き方を探究していくことができる単元でもある。

働きかけ・環境設定

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ○ それぞれの企業が大切にしている理念や、そこで働く人たちの思いや願いがその人の生き方に影響を与えられていることを理解している。 | ○ それぞれの企業や働く人たちの思いや願いを整理・分析し、自分の考えを広げ、自分の将来について考えたことを相手や目的に応じて表現している。 | ○ それぞれの企業で働く人との探究活動を通して、働くことに関心をもち、自己の生き方について考えを広げ、これからの自己の生き方に生かそうとしている。 |
| <p>① それぞれの企業や働く人たちが、地域住民の幸せや、町の発展を願っていることを知るとともに、その人の生き方に影響を与えられていることを理解している。</p> <p>② 目的に応じて、職業体験を実施したり、相手や場面に応じた方法でインタビューしたりしている。</p> <p>③ 自己の生き方を見つめ直すことができたのは、それぞれの企業で働く人の思いを探究した成果であると気付いている。</p> | <p>① 働く人たちの姿や思いから、自己を見つめ、問いを見出し、課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしなが、計画を立てている。</p> <p>② 働く人たちの思いや願いを知るために職業体験をしたり、インタビューやインターネットなどで調べたりして、必要な情報を収集している。</p> <p>③ 収集した情報の中から、それぞれの企業や働く人たちに共通する思いや願いを見つけ、自身が大切にしていきたいことと関連付けて考えることで、これからの自己の生き方をより豊かにしようとしている。</p> <p>④ 働く人たちと自身の思いや願いを関連付けて考え、分析した結果を、相手や目的に合わせて効果的な方法で表現している。</p> | <p>① それぞれの企業や働く人との探究活動を通して、自己の生き方を見つめ直し、自己の変容に気付くとともに、異なる意見や他者の意見を受け入れて尊重しようとしている。</p> <p>② それぞれの企業や働く人たちの思いや願いをグループで探る活動を通して、働くことに関心をもち、これからの自己の生き方に生かそうとしている。</p> <p>③ それぞれの企業で働く人との関わりの中で見えてきた仕事に対する見方や考え方を、自分の将来と重ねて考え、これからの自己の生き方を見つめ直そうとしている。</p> |
| 出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと） | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 三島食品株式会社 佐伯 俊彦様 他職員一同 ・ オタフクホールディングス株式会社 児玉 崇様 他職員一同 ・ 株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 亀岡 大介様 他職員一同 ・ Pride of Hiroshima 展 ・ 広島平和記念資料館 ・ 広島平和記念公園 | | |

探究の過程の構想



| | 小単元1 何のために働くのだろう？ | 小単元2 働く人が大切にしている思いは？ | 小単元3 どう生きるのか？ |
|--------|---|---|---|
| 課題の設定 | 「将来の自分」についてアンケートをもとに話し合う。「人は何のために働いているのか。」という問いについて考える。(思①) (3 h) | 三社で働く人たちがどんな思いで仕事に取り組んでいるのか、その思いをどのように生かした取組をしているのか考える。(思①) (2 h) | 将来の自分のために、自分が大切にしたいことについて考える。(主③) (1/2 h) |
| 情報の収集 | 実社会で働く人たちが何のために働いているのか知るために、三島食品・アンデルセン・オタフクソースで働いている人に話を聞いたり、見学に行ったりする。(知②) (7 h) | 職業体験や働く人へのインタビューやインターネットなどで、企業が大切にしている理念や働く人の思いについて調べる。(思②) (10 h) | 自分の興味・関心に沿った生き方や仕事ができるように目的に応じた方法で情報を収集する。(主②) (4 h) |
| 整理・分析 | 三社の歴史や取組、働く人たちの思いについて共有し、共通点を考える。(思③) (2 h) | 働く人の思いを実現するために、やりたいこと・伝えたい内容を考える。また、それが本当に働く人の思いや願いにつながっているのか、よりよくするためにはどうすればよいかを、話し合いで決める。(主①) (13 h) | 様々な生き方や考え方に触れ、共通点や異なる点を見出し、自分が大切にしたいことについて深める。(思③) (4 h) |
| まとめ・表現 | 三社で働く人たちが大切にしている思いについて、もっと知りたいと思ったことをまとめ、自分がこれからも関わりたい企業や人への思いをまとめる。(思④) (3 h) | 働く人の思いや願いを実現するためにやりたいことを企業にプレゼンし、実践する。(知③) (15 h) | これまで学習して考えた「これからの自分の将来」をもとに、相手意識を明確にし、自分が大切にしたいことを伝える。(知①) (5 h) |

7 本時の目標

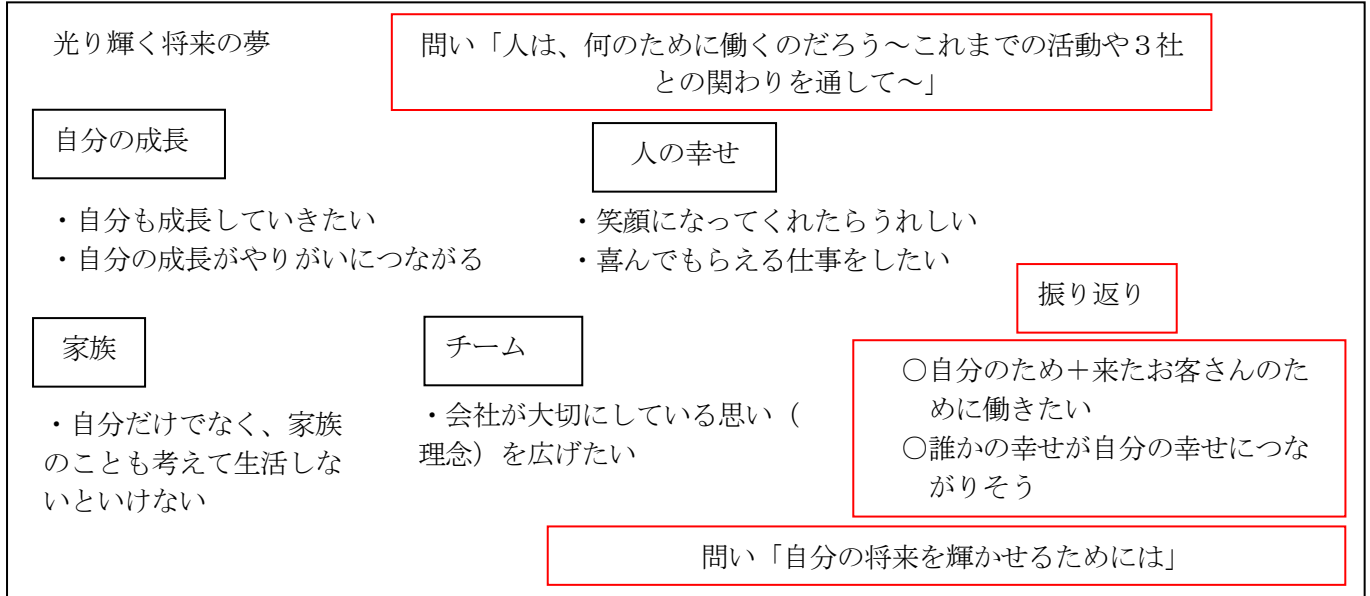
それぞれの企業で働く人との関わりの中で見えてきた仕事に対する見方や考え方を、自分の将来と重ねて考え、これからの自己の生き方を見つめ直すことができる。【主体的に学習に取り組む態度③】

8 本時の学習展開

| | 学習活動 | 働きかけ（目指す子供の姿のために） |
|----|---|--|
| 事前 | 0 次時に向けての問いを立てる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本時の見どころ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">★事前学習による問いに対する自分なりの考えの確認。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人は、何のために働くのだろう ～これまでの活動や三社との関わりを通して～</div> |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 三社で働く方が事前に作成したダイヤモンドランキングを掲示しておくことで、多様な視点を持ち、話し合うことができるようにする。 |
| 本時 | 1 本時の問いを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習の子供の意見や思考の流れを整理し教室の側面に掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人は、何のために働くのだろう ～これまでの活動や三社との関わりを通して～</div> |
| | 2 問いに対する自分の考えを小グループで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合う視点を明確にするために、思考ツール（ダイヤモンドランキング）を活用する。 ○ 子供が主体的に話し合いに参加したり、思考が深まるような問い返しをしたりするために、問いに対する考えを事前に見取しておく。 ○ 同じ問いを定期的に問うようにすることで、自分自身の変容に気付くことができるようにしておく。 ○ 子供が友達の考えを自分事として聞くことができるように、自分の考えとの共通点や相違点などはないか考えながら聞くように声を掛ける。 |
| | 3 小グループで話し合った事を全体で共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合う視点を明確にするために、小グループで話し合った結果、自分の考えに変化があった部分について全体で交流する。 |
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本時の見どころ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">★意見交流による思考の深まり。</div> |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>やっぱりぼくは自分を成長させるために働きたいです。自分は物を直すのが好きなので、自転車屋さんになりたいと思っています。でも、まだまだ自分だけでは直せないで成長したいです。○ ○さんが「自分の成長がやりがいにもつながる」と言っていたことも大切だと思いました。</p> </div> | |
| | 5 次時に向けての問いを作る。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の将来を輝かせるためには</div> |

| | | |
|----|--|--|
| 事後 | 6 次時までの時間を使って、本時での話し合った内容を整理し自分の考えをもつ。 | ○ 考えをもつことをゴールにするのではなく、問いに対して思考を重ねたことを認めるようにする。 |
| | | 本時の見どころ |
| | | ★次の問いの確認。 |

8-1 板書計画



9 本時の評価規準と目指す子供の姿

| 本時の評価規準 | 目指す子供の姿 |
|---|---|
| <p>【主体的に学習に取り組む態度③】</p> <p>それぞれの企業で働く人との関わりの中で見えてきた仕事に対する見方や考え方を、自分の将来と重ねて考え、これからの自己の生き方を見つめ直そうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(ノート・発言)</p> | <p>○ それぞれの企業で働く人との関わりの中で見えてきた仕事に対する見方や考え方を、自分の将来と重ねて考え、これからの自己の生き方を見つめ直そうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっぱりぼくは自分を成長させるために働きたいです。自分は物を直すのが好きなので、自転車屋さんになりたいと思っています、でも、まだまだ自分だけでは直せないで成長したいです。○○さんが「自分の成長がやりがいにもつながる」と言っていたことも大切だと思いました。 ・ これまでは、自分のためが大切だと考えていたけれど、○○さんの「お客さんが笑顔になってくれるとうれしい」という話を聞いて、その通りだなと思いました。自分のためだけでなく、他の人にも喜んでもらえて、幸せにできる仕事がしたいと思いました。 |

10 本時の見どころ

- ・ 「人は、何のために働くのか」について他者と対話することを通して、自己の考えと他者の考えやこれまでの経験を結び付け、思考を深めようとする姿が見られるか。